

第1回長島町立小中学校等統合再編推進委員会での主な質問やご意見

日時 令和5年1月25日
午後3時30分から4時40分
場所 指江支所2階大ホール

出席者 推進委員会委員（30名中29名出席）
町長部局 総務課2名
教育委員会 教育長 事務局職員6名

1 主な質問

Q 小学校の複式学級解消については賛成。中学校1校を長島高校跡地にするとなれば、建物は取り壊しになるのか。

回答：再編場所については白紙の状態です。

Q 教育委員会は4つの学校が統合した宮之城中学校を視察研修している。その時の研修内容について説明を求める。

回答：さつま町立宮之城中学校は、旧宮之城町、旧薩摩町、旧鶴田町にある4つの中学校を1校に再編し、令和元年に開校しています。生徒数は517名の大規模校です。再編の経緯としては、さつま町教育委員会では当初、4中学校を2校に再編するという案を進めていましたが、住民説明会の中で、住民から最初から1校にしてほしいという意見が多く寄せられたため、1校に再編となったようです。小学校については、前回、地域の反対により再編が実現できなかったところが、現在では、地域からの要望により再編が進んでいるとのことでした。

Q 子供たちの中で、あえて小規模校を選択する子もいる。その子供たちへの対応として、特認校等を設置する考えはないか。

回答：様々な事情を抱えている子供たちへの配慮も大切であると思います。

しかし、特認校については、母体となる学校の児童数によって学級数が変わり、教職員の配置人数が決まることも理解していただきたいと思います。現在、長島町内で小規模特認校制度は考えておりません。

Q 統合再編方針案の小学校における1学級の児童数について、25名から30名、クラス替えが可能な2学級以上が望ましいとなっているが、現在の児童数をみると厳しいのではないか。小学校も統合再編するというのか。

回答：あくまでも望ましい学校規模としての理想の人数で、現在、学校は35人で1学級となっています。子供たちが集団の中で多様な見方、考え方を学び合う環境を作りたい。そのためにもまずは複式学級の解消を進めていきたいと考えております。

Q 免許外教科担任とはどういったものなのか。

回答：免許外教科担任は、専門教科の教員免許状だけではなく、別の教科の免許を臨時で取得することで教えることが可能になります。免許外教科担任の解消をすれば、専門教科に専念することができるため、教員の負担軽減につながります。長島町の現状は、生徒数、学級数が少ないことで全部の教科担任をすべて配置することができていません。長島町の教員は、専門外の教科を臨時免許として取得し、1人で複数の教科担任をしている状況となっています。

2 主なご意見・要望

- ・ 地域による子供たちの見守りはどうなるのか。長島高校跡地周辺は民家も少ないため、防犯の面も心配である。そこも配慮していただきたい。
- ・ 平成27年に議会が長島高校跡地への1校案が否決になった際に、住民投票をすべきではないかと請願したが、これも否決された。住民投票をすれば、子供を持つ親からも理解が得られたのではないか。
また、長島高校を解体して中学校を新設するとなると、莫大な費用が掛かると宣伝された。もし学校が1つになれば、校長教頭も1人ずつになるなど人件費も抑えられる。長島高校は県立であり土地も県のものであるため、解体費用を町に負担させるのはいかななものか。そこは交渉してほしい。
長島高校周辺の防犯についてもそこまで心配する必要があるのか。
- ・ 少人数の中でも児童、先生、地域が一丸となって頑張っている。地元で愛されている学校であるため、できれば残してほしい。
- ・ 統合再編についてのランニングコストはいろいろな面から考えていく必要がある。住民がしっかり理解できるよう示してほしい。

学校は、地域の文化や伝統があり残したいという気持ちもわかる。統合するときには反対意見がでたが、今となつては、保護者は統合してよかったと感じているようである。

- これまでの経緯を聞いて、長い間様々な検討をしてこの方針案ができたということがわかった。この方針案については賛成である。
- 統合再編方針案については賛成である。平成21年の長島町立小中学校等の規模配置のあり方検討委員会からの答申は、将来を見越したものであり適正であった。当時は、まだ機が熟していなかったのではないかと。

- 宮之城中学校が統合して目に見えて変わったのは、部活動が強化されたことだと聞いた。学業の方はすぐに成果は出ていないということだったが、専科の教員が複数名いることで学力をあげるために教師もチームを組める。協力し合って子供たちの学力向上に尽力してくれると思う。

自分の子供が通っている中学校は部活動の選択肢が少ない。希望する部活ができないことで、意欲が低下している子供もいる。また、資料で町外の学校と合同チームを作っているのを見たが、まずは町内でひとつになり、長島町でチームを作るようにするべきではないだろうか。

小学校については、将来的には1校に統合ということも出てくるとは思うが、まずは複式学級の解消をして、人と人とのコミュニケーション能力をつけなければいけないと思う。

長島町の子供たちは地域や周りの環境に恵まれている。

地域で見守るとの話も出たが本当にそれでいいのか。中学生にもなると自分のことは自分で考え、自分を守る。また、集団の中で生活することで多様な価値観に触れながら成長できると思う。

教育に関しては、お金のことも大事だが、子供たちのことを第一に考えてほしい。そのためにもこの方針案に賛成である。子供たちの力は将来の長島町の力である。

- 学校がなくなれば地域は廃れるという考えもあるが、子供たちの成長を考えればある程度の人数の中で学ぶことが必要だと思う。

また、中学校が1校になると通学距離が遠くなる子供も増えてくることから、スクールバスの整備も考えて欲しい。

- 今回出された統合再編方針案について賛成反対はないが、子供たちにとってどうすることが一番ベストなのかを優先してほしい。

大人の事情だけではなく、子供たちの意見も反映するべきだ。

- 平成27年での議会の1校案否決の理由は、旧東町、旧長島町から、反対陳情が提出されていたためである。内容としては旧町に1校ずつ2校に再編というものだ。これを受けて中学校1校案は住民の理解が得られていないことを理由に否決した。議会としては、今回の会も含めいろいろな意見を聞きながら検討していきたい。
- いろいろな学校や行政を回る中で、地域の応援はとてありがたく思う。しかし、小規模校を経験してみて保護者の負担がとて大きいことがわかる。また、小中学生のうちに地元の同級生5人と学ぶことと多様な考え方を持つ同級生50人と学ぶことを比べると、経験値が変わってくる。地域の人たちが小さい学校を支えてくれるのはとてありがたいことだが、やはり同じ年代の子供たちから学ぶことも多いのではないかと思う。この会を通じて委員全員が同じ方向を見て統合再編を進めてほしい。
- 特別支援学級について、支援が必要な子供たちは年々増えている。今後の特別支援学級の生徒の推移や教職員の推移がわかるとよりよい。福祉の面についても判断材料の1つにしてほしい。
- 中学校の統合再編には賛成である。小中一貫校や小中高の一貫校をしてもいいと思う。全国から素晴らしい学校だといわれる学校を目指せたらいい。